

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。  
秘書広報課 ☎230052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



メイフラワーの家族と意見交換を行う児童たち

### 「心のバリアフリー」を広めよう

#### ■市の福祉について学ぼう

川崎小学校の5年生22人は2月15日、榛原文化センターを訪れ、市職員から福祉に使われるお金や障がいの種類などについて学びました。

また、重度の障がいを持つ子どもの親の会「榛南重心親の会メイフラワー」のメンバーともふれあいました。メンバーは「心のバリアフリーをしてほしい、広めてほしい」と訴えました。

児童らは「障がいがある人に対し、自分たちがどのような行動すれば良いのか分かった」と福祉について理解を深めました。

### 御神体を守り五穀豊穡を願う

#### ■県指定無形民俗文化財「一幡神社の御榊神事」

一幡神社に伝わる県指定無形民俗文化財「御榊神事」が2月9日から11日にかけて行われました。神事は、名（苗）と呼ばれる28戸に引き継がれており、輪番で1戸が「本名」として祭典を仕切ります。本名の八木洋人さん宅から一幡神社まで御本飯と呼ばれるひし形餅やお神酒などが運ばれ、新しい本名の田形治さんに引き渡されました。

この後、さいの目状にした御本飯を榊の葉に包んだ御神体「御榊様」が作られ、1年間神社にある御飯屋に祭り、翌年の豊作を願いました。



榊の葉を口にくわえて御神体を一幡神社へと運ぶ行列

### 農林水産大臣賞を受賞

#### ■第19回全国果樹技術・経営コンクール

全国の果樹農業において、先進的な生産技術や経営などを行う個人や団体を表彰する「全国果樹技術・経営コンクール」で、大関晴久さん・よう子さん（坂部区）が農林水産大臣賞を受賞。

大関さんは基幹作物を茶から柑橘に転換し、基盤整備とマルチ・点滴かん水同施肥法、ハウスレモン栽培の取り組みが受賞につながりました。

大関さんは「高品質で安全・安心な農作物が生産できる環境を実現し、後継者が夢を持てる近代的な経営に向けて挑戦し続けたい」と話しました。



農林水産大臣賞を受賞した大関さん夫婦



エンジョイコースを楽しみながら走るランナー

### 早春の市内を舞台に力走

#### ■第61回田沼意次牧之原市マラソン大会

第61回田沼意次牧之原市マラソン大会が2月11日、市役所相良庁舎周辺を舞台に開催され、市内外から1,017人が出場しました。

コースは2キロ・5キロ・10キロの3コースで、今大会より10キロを周回コースから一周回コースに変更し、自動計測システムを導入するなど、ランナーにより楽しんでもらえるようにしました。

また、順位やタイムなど気にせず誰でも参加できるエンジョイコース（2キロ）も行われ、参加者は自分に適したコースで大会を楽しみました。



さまざまな種類のお茶を堪能する来場者

### 市内のお茶カフェ、い〜らに大集合

#### ■まきのはら協奏曲

市内のお茶とスイーツが楽しめる、お茶カフェ大集合「まきのはら協奏曲」が2月4日、い〜らで開催され、約330人が訪れにぎわいました。

このイベントは、多くの人に静岡牧之原茶を知ってもらい、楽しんでもらおうと静岡牧之原茶宣伝隊が企画し、今回で4回目。会場には市内のお茶生産農家や茶問屋、和洋菓子店による多彩なブースが並びました。

来場者は、各ブースで深蒸し茶や釜炒り茶などのお茶やお菓子を堪能しました。

### 白やピンクの梅で色鮮やかに

#### ■相良梅園

2月4日から3月上旬まで、相良梅園が開園し、多くの来場者を楽しませました。

山の斜面を利用した約1.5ヘクタールの敷地に白加賀や南高、鹿兒島紅、しだれ梅など20品種、700本ほどの梅の花が色鮮やかに咲き、白や赤、ピンク色に染まりました。

また同園では、地元産のとれたての大根や白菜など、多くの地場産品が販売されたほか、入園者にはお土産として、自家製の梅干しがプレゼントされました。



色鮮やかに染まった梅を楽しむ来場者

### 小学校入学に向けて

#### ■交通教室

交通教室が2月6日に菅山保育園で行われ、5歳児12人が交通ルールを学びました。

この教室は園児の小学校入学に向け、交通ルールをしっかり守り、安全に登下校できるようにと行われたものです。園児らは、交通指導員から道路での正しい歩き方や雨の日の歩き方など説明を受けた後、実際に小学校までの道を歩きました。

登下校の体験をした園児は「傘を差しながら歩くのは大変だったけど、小学校までしっかり安全に歩けた」と話しました。



指導を受けながら小学校まで歩く園児



入賞を関係者みんなで喜ぶ

### 児童が育てた自然薯が入賞

#### ■静岡県自然薯研究会主催「第31回品評会」

萩間小学校の3年生19人が学校農園で育てた自然薯が、県自然薯研究会主催の品評会で3等1席に入賞しました。

自然薯は、学校支援員の長谷川正治さんを始め、萩間自然薯の会のメンバーの指導のもと、児童らが6月に種芋を植え、水やりを欠かさず行い、こまめに雑草を抜くなど一生懸命育ててきました。

児童たちは「毎日水掛してよかった。大きいのが採れてよかった」「師匠（長谷川さん）のおかげ。本当にうれしい」と話し入賞を喜びました。